

令和4年度 第2回清水区地域包括支援センター運営部会 議事録

1 日 時

令和4年11月10日(木) 14時00分～15時50分

2 場 所

清水区役所 3階 第1会議室

3 出席者

(委員) 瀧部会長、大檐委員、井上委員、中村委員、岩上委員、森委員、吉永委員
(地域包括支援センター) 10 地域包括支援センター

4 事務局

清水区役所 清水福祉事務所 高齢介護課 高齢者福祉係
保健福祉長寿局 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係

5 傍聴者

0人

6 包括活動報告及び意見交換

1) 委員との意見交換

(1) 松原地域包括支援センター

中村委員：

どの地域もインフォーマルサービスを探し、繋げていくことが課題と感じている。ゴミ出しの早い時間対応が難しいということだが、解決策は見つかったのか。

松原包括：

一つは小規模多機能の事業者から連絡で隣の70代の高齢者が気にかけてくれていたので、申し訳ないけどお願いした。もう一つは民生委員と共有した方で、ボランティアが見つからなかったのでヘルパーさんが見つかるまで、毎回ではないがケアマネにゴミを出してもらおうようにお願いした。

井上委員：

事業概要の報告が11項目遂行しているのは素晴らしいのですが、重点的に進めていかなくってはならないものや、これは進めていくのに難しいというものはあるか。

松原包括：

銀行との連携がうまくいったので、コンビニやドラッグストアもうまくいくと思ったが、そのような店舗は職員の入れ替わりが激しいので、説明が無理と言われた。チラシ配布や相談会などでその時偶然出会った方の発見はできるが、常時お店にいる人たちに見つけてもらって連携を図る事については、銀行のように上手くいかない。前年度できなかった事業を今年度組み直したいが、コロナの合間を見ながら関係機関との連携もあわせると、また来年度になってしまうかもしれないと思う事業もある。

瀧部会長：

YouTube を発信している包括もある。ネット環境に詳しい若い職員などがいれば、他包括で取り組んでいるセンターと情報共有して欲しい。

(2) 有度地域包括支援センター

森委員：

今回の災害で大きな被害を受けたという事だが、実際、地域災害の拠点という事で詳しい被害状況とどうやって復旧させたか。

有度包括：

圏域の中でも一番被害が酷かったのが有度包括の場所であり、ライフラインのほか連絡手段がすべてダメだったが、電話が1本繋がっていた。そのため、同一法人の岡船越包括支援センターに協力いただいた。情報はネット、メールですべて入ってくるので、それを取捨するのが難しかった。FAX は早く確認することができたが、法人の中にあるもので包括以外の情報もあり錯綜していた。今回のことを踏まえてそこをどのようにしていくのか、記録は残しておかないといけない。法人の中にある特養の利用者の安否確認などもあり、かなり混乱した。今後どうしていこうかというのが課題である。

岩上委員：

昨年度は有度在宅医療介護福祉連絡会が開かれたが、今年度は行う予定はあるか

有度包括：

地域や居宅等から共通の課題として防災が上がっていた。準備段階で、台風の被害にあってしまったため、中断している。出来れば開催したい。

井上委員：

グーグルドライブ等、他の包括と比較してITの活用がされているという事だが、実際には電話とFAX利用が多い中、こういうことを利用するにあたりケアマネさんたちの理解や活用度はどうですか。

有度包括：

メールは一括配信して、返信もメールなので問題は無い。グーグルドライブ等については見ていただくようお願いしているが、まだ過渡期であると思う。

(3) 蒲原由比地域包括支援センター

森委員：

9月から始まった認知症高齢者と子供の見守り活動は、蒲原由比両方で行われているのか。

蒲原由比包括：

個別ケア会議の対象ケースが由比小学校エリアなのでその地区のみ実施している。ケースは、自分の居場所として通学路に座っている認知症高齢者。既存のサービスに乗れる

方ではない。他の病気もあり、風貌からも子供たちが怖がっているという事もあり、地域の友人が参加して話を聞いたり、本人の居場所や安全を確保するためにも、民生委員に週2回、見守りのため立ってもらっている。蒲原地区も情報共有したが当てはまる事例がない。由比地区での活動状況について、民児協で共有のみ行った。

瀧部会長：

銀行行員へのミニ講座が実施されているという事だが、時間帯やどのような職員が参加しているのか。

蒲原由比包括：

業務が落ち着く16:30から30分くらい、パートの方も含めて全職員参加している。

瀧部会長：

移動スーパーの停留地の開拓など、地域性に合わせた地道な活動を続けて欲しい。

(4) 港北地域包括支援センター

中村委員：

介護を担う現役世代向けの講座には、どのような方が参加したか。アプローチの仕方や開催時間はどうだったのか。

港北包括：

40~60歳代を狙って企画したが、実際は70~80歳代の方が参加した。チラシを回覧したが、薬の講座だったため若い年代は薬を飲んでいない方もいるため、内容が意図するところと違って伝わりにくかったのかと思う。土曜日の午前中の開催だった。

井上委員：

50~60歳代は成年後見制度や相続の話題が集まりやすいので、参考にして欲しい。

シートを見ると今後の課題がかなり多くあるようですが、重要課題は何ですか。

港北包括：

人員確保が難しい。本当は事業をもっとやりたいし、アイデアを皆から出しながらタイムリーに進めていきたい。出張相談も評判が良いので毎月体制で開催したいが、人手不足で行くことができない。

瀧部会長：

人員についてはすぐに解決できないところだと思うので、包括内で主なところに重点を置いてはどうか。主任ケアマネも多忙なので、連絡会を全部任せるのは難しいと思う。包括が後方支援をして欲しい。

(5) 興津川地域包括支援センター

森委員：

興津川地区は、台風15号被害の復興が遅れた地域もある。それによって苦労したところはるか。

興津川包括：

興津地区は井戸水がある家が多くて生活用水に使えた。井戸水のある家庭が近所に井戸水の解放を呼びかける互助の力によって乗り切ることができた。小島地区では、市から配給された飲料水を包括職員と民生委員が協力して配布した。農業用水をトイレ用に配るなど、地域の力で水が回った。声を発せられる人は良いが、日頃地域との関わりの無い人は地域の協力が得られないので、状況を把握している民生委員の支援をいただいた。民生委員だけの負担にならない様、そのような対象者を把握しておくことが大切だと思う。

瀧部会長：

今回の台風災害では、個人の SNS による情報発信を多く目にした。情報を受ける側は個人の SNS よりも、包括が発する情報の方が信頼性が高い情報として安心できる。今後、検討してみてはどうか。

→地域包括ケア推進本部へ確認。「市全体での情報発信の課題がある中、現段階では包括単位での情報発信は難しい。」との回答あり。

吉永委員：

包括職員が S 型デイサービスで寸劇を見せる事により、参加者に興味を持たせ、認知症について周知する方法は効果的である。(S 型デイサービスで参加者に配布する資料を委員に配布) この配布資料は認知症の種類や生活習慣などのポイントを沢山伝えたいと思うが、専門職ではなく一般向けの資料のため、最も伝えたい事にフォーカスした資料の方が伝わるのではないか。

(6) 両河内地域包括支援センター

岩上委員：

おむつバンクはとても良い取り組みなので、これからも頑張りたい。また、S 型デイサービスでオーラルフレイルについて実施できたのは歯科衛生士の助言や口腔保健センターの歯科医師も参加しているので、とても良いと思う。

井上委員：

オーラルフレイルのアンケートはどのような感じだったか。

両河内包括：

アンケート内容は簡単で、時間も 10 秒ほどで書けるものだったので問題なく答えてもらうことができた。高齢化率が高い地区なので若い人のアンケートは取りにくいですが、高齢者が体だけではなく口腔から元気になってもらえればと思う。肺炎予防にも繋がるので、地道に毎年やっていきたい。台風災害については、被災しても住みたいという高齢者が多い。介護保険で何とかできるように、介護保険を申請した人もいる。民生委員には力があるので、何かあれば包括の方に連絡を貰って助かっている。小中学校が 3 校合併して子供との交流も考えていた。今年は無理だが来年度はやりたい。

瀧部会長：

包括の定員3人のところを2人でやっている。人員確保はどうか。

両河内包括：

10月に採用する予定が1月に延びたが、それも確定ではない。募集をしているが、山間部なのでなかなか難しいのが現状。

(7) 港南地域包括支援センター

大檐委員：

もの屋敷というのはどのような状態をいうのか。

港南包括：

一般にごみ屋敷というが、本人にとっては大切な物。ごみでは無い。あえて、モノ屋敷とした。

大檐委員：

専門機関と連携して解決していくものか。

港南包括：

身寄りが無い独居高齢者、金銭問題、介護の受け入れが大変等、包括だけでは解決できない。他機関と連携して協力を得ないと解決に結びつかない。

中村委員：

高齢者と子供をつなげるのはいいことで、良いマッチングだと思う。どんな方法でつなげたのか。

港南包括：

9月の台風後に不安の訴えが増えた高齢者がおり、たまたまその高齢者の自宅近くに「寄ってっ亭（誰でもが集える場所）」があった。そこには不登校の子供たちが学校には行きたくないけど囲碁はやってみたい、囲碁の相手が欲しいという子供たちのニーズと合った。アルコール依存症の人も、子供の中で素直になれるという事で、結び付けた。

(8) 岡船越地域包括支援センター

吉永委員：

ボランティア育成を目的とした講座はどのような方を対象としたか、実際に来たのはどのような人か。

岡船越包括：

交流館事業であったものを包括で利用させて頂いた。全体で20~30人位参加し、60代以上の方が多かった。介護保険で出来ること、出来ないことについて理解を得たり、地域の方の見守りの大切さなど知っていただいた。今後、そのような人を育てていきたい。

瀧部会長：

台風15号の災害をきっかけにした課題とは、どんな事がありますか。

岡船越包括：

ハザードマップでは、予想できないところの被害があり、マップをよく見ると被害について載っていたところも意外とあった。断水が長かったので地域のケアマネや各種団体が個別に活動していたが、お互いに連絡を取り合えたら良かったとの声が聞かれた。情報共有できるような横のつながりを作っていきたい。ライン活用の案もあり、それを形にしていけたら良い。点を線に面にしていくことが課題。

(9) 高部包括支援センター

大檐委員：

地域ケア会議の実施状況について、今年度の開催状況はどうなっているか。どういうケースを個別ケア会議にあげるのか。対象者の選定基準があるのか。

高部包括：

ケース対応型地域ケア会議は今週、開催した。ケアマネから団地の中で病気しやすい方（救急車でよく運ばれる方）の見守りの段取りができず困っている、その方については地域の方も困っているとの話があった。実際は介護サービスを使うなどケアマネも動いていることから、包括とケアマネがお互いコミュニケーションを図ることが大切であり、そのような連携が必要な方をケア介護の対象者とする事が多い。

井上委員：

月1～2回の定期見守り訪問とあるが、何件くらいで、外から見ただけか実際に会っているのかなど、どのように行っているのか。

高部包括：

保健師・看護師のどちらかが必ず入るようにし、2人1組で体調管理も対面で話をして体調を含めて確認している。その時によって違うが、1人の職員あたり、月に8人から15人位訪問する。2か月に1回と回数を減らしたり、入院などで訪問に行かない時もある。

吉永委員：

定期見守り訪問をして、何かメリットはあったか。

高部包括：

今日あったケースだが、今まで何回も訪問をしていた高齢者が介護保険を出すことをためらっており、書類はいつでも出せる状態にありそのままの状態だったが、台風15号で床上浸水になり、困難ケースとしてすぐに介護保険申請→認定調査へと繋がる事ができた。

吉永委員：

定期見守り訪問はとても根気がいるが、今回繋がって良かった。今後も継続して欲しい。

(10) 飯田庵原地域包括支援センター

瀧部会長：

機関誌の配布について、感染予防のためスーパーや薬局への配布は自粛したとのことだが、どのような点を感染リスクありと考えたのか。

飯田庵原包括：

チラシを手にした色々な人が触り、チラシを戻してしまう事で起こる感染拡大をリスクと考えた。

瀧部会長：

感染リスクもあるが、周知活動も効果的に行っていて欲しい。

吉永委員：

いちごの会は4人の参加があったという事だが、どのように周知したのか。

飯田庵原包括：

会員名簿より手紙を出した及び参加していただいけそうな方には電話で連絡した。コロナ感染症流行の合間を見ての開催だったので、10人以下を想定して企画し、5人の申込みがあり、当日欠席者がいて4人の参加となった。

吉永委員：

介護家族の会は歴史があると聞いており、継続して行って欲しい。